

田村・三春・小野都市計画区域の整備、開発及び保全の方針 【田村・三春・小野都市計画区域マスタープラン】（素案）

概要版

1. 基本的事項

1) 対象区域

- 田村市、三春町及び小野町の各行政区の一部
- 都市計画区域面積：21,865ha

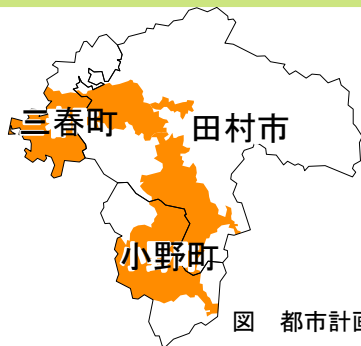


図 都市計画区域の広がり

2) 目標年次

- 平成42年（平成22年基準）

1) 都市の現状と課題

広域的な視点

- 阿武隈高地の西部に位置し、県中広域都市圏の中心都市・郡山市に隣接
- 磐越自動車道とあぶくま高原道路による広域アクセスが向上しているとともに、JR磐越東線や国道288号、349号により区域内外と結びついている
- 高速交通を生かした工業拠点が形成され、それらの充実が求められる
- 「滝桜」や三春ダム、あぶくま洞など、既存の観光拠点の充実が必要
- 阿武隈高地の山林など、豊かな自然環境の保全・利活用による自然共生型の地域形成が必要

土地利用

- 東日本大震災や原子力災害の影響による富岡町、葛尾村など他市町村からや区域内での人口流動が大きく今後の土地利用の動向に影響を及ぼす
- 丘陵状の地形に森林、河川、農地、宅地が混在し、自然と調和したまとまりのある市街地を形成
- 豊かな自然環境の保全・活用とともに、効率的な土地利用の誘導によるバランスの取れた土地利用の実現が必要
- 田村市船引地区や三春町中心部、小野町中心部などでは、中心市街地での都市機能の集積、まとまりのある市街地の維持が必要

都市施設

- 磐越自動車道、あぶくま高原道路の船引三春ICと小野ICによる高速交通体系への接続を生かし、国道による、郡山市や圏域各都市、福島空港などへの交通体系の連携・強化が必要
- 東日本大震災を踏まえた災害に強い都市施設整備が必要
- 地域の実情に応じた公共交通の導入を検討しつつ、公共交通機能の維持強化、駅機能の強化
- 水害への安全確保のための親水空間の形成に配慮した河川改修の推進が必要
- 良好な居住環境の形成、水環境の保全を図る下水道等の整備推進が必要

開発事業

- 三春町や田村市船引地区での土地区画整理事業や住宅団地開発、田村西部工業団地の整備が実施済み

自然的環境

- 阿武隈川水系及び夏井川水系の水源となっている阿武隈高地の自然環境及び水質の保全が必要
- 農業生産、良好な田園景観などの多様な機能をもつ優良農地の保全が必要
- 豊かな自然環境、三春地区の城下町としての歴史的景観など歴史や地域資源を生かした、個性ある都市づくりが必要

3. 区域区分決定の有無

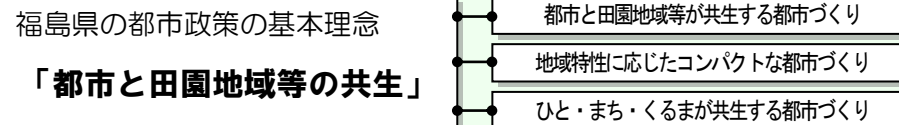
1) 区域区分の有無とその理由

「区域区分を定めない」

- 本区域を構成する自治体の人口は総じて減少
- 農業振興地域の整備に関する法律や森林法の規定により市街地の無秩序な拡大を規制

2. 都市計画の目標

2) 都市づくりの理念



田村・三春・小野都市計画区域における都市づくりのビジョン

「あぶくまの森と水に抱かれた 交流と定住を支える ふるさとづくり」

- 豊かな自然環境を地域・流域全体の共有財産とし、大切に都市づくり
- まとまりある市街地を維持し、さまざまな機能が集積する誰もが住みやすく利用しやすい都市づくり
- 既存観光拠点の維持・充実と、豊かな自然や田園を活用した観光交流の活性化
- 三春城跡や夏井千本桜など、各地域の資源を生かした都市づくり
- 自然や農地と調和した住み心地の良さを実感できる都市づくり
- 個性を生かして区域内の拠点や地域の連携強化

① 緑豊かな自然環境や田園地域等の保全

- ・集約型都市への転換、無秩序な市街地の拡大を抑制
- ・大滝根山や片菅根山などの山々や、それらを源とした河川など、豊かな自然環境を財産として位置付け、適正な保全
- ・地域固有の田園景観を呈し、起伏に富んだ地形を生かして形成された田畑は、農業振興策と合わせて維持・保全



② 安全で安心できるまちづくりの推進

- ・河川の整備、河川上流部の治水・治山事業、急傾斜地の防災対策を推進し、災害に強いまちづくりを進める
- ・延焼遮断帯、避難路や避難場所の確保に努める
- ・危険地域の情報の周知徹底、住民と行政の連携強化



③ 生活圏の広域化に対応した、交流と連携のネットワークづくり

- ・磐越自動車道、あぶくま高原道路などを生かし、広域の交流の促進
- ・国道やJR磐越東線による区域内の各市街地や隣接市町村との連携・交流の強化
- ・都市と田園地区との相互交流



④ コミュニティの維持に配慮したまちづくりの推進

- ・市街地、田園地域とも住み続けられる地域を構築するためのコミュニティの維持、再生
- ・都市部との交流や、移動手段の確保に努め、地域内外の力でコミュニティの活性化



⑤ 魅力とにぎわいのある中心核と産業基盤の形成

- ・中心市街地では、歴史文化・医療・商業などの都市機能の維持、良好な居住環境の形成
- ・福島空港、あぶくま高原道路を活用した新たな時代をリードする産業の創出や集積
- ・6次産業化などの新たな産業創出

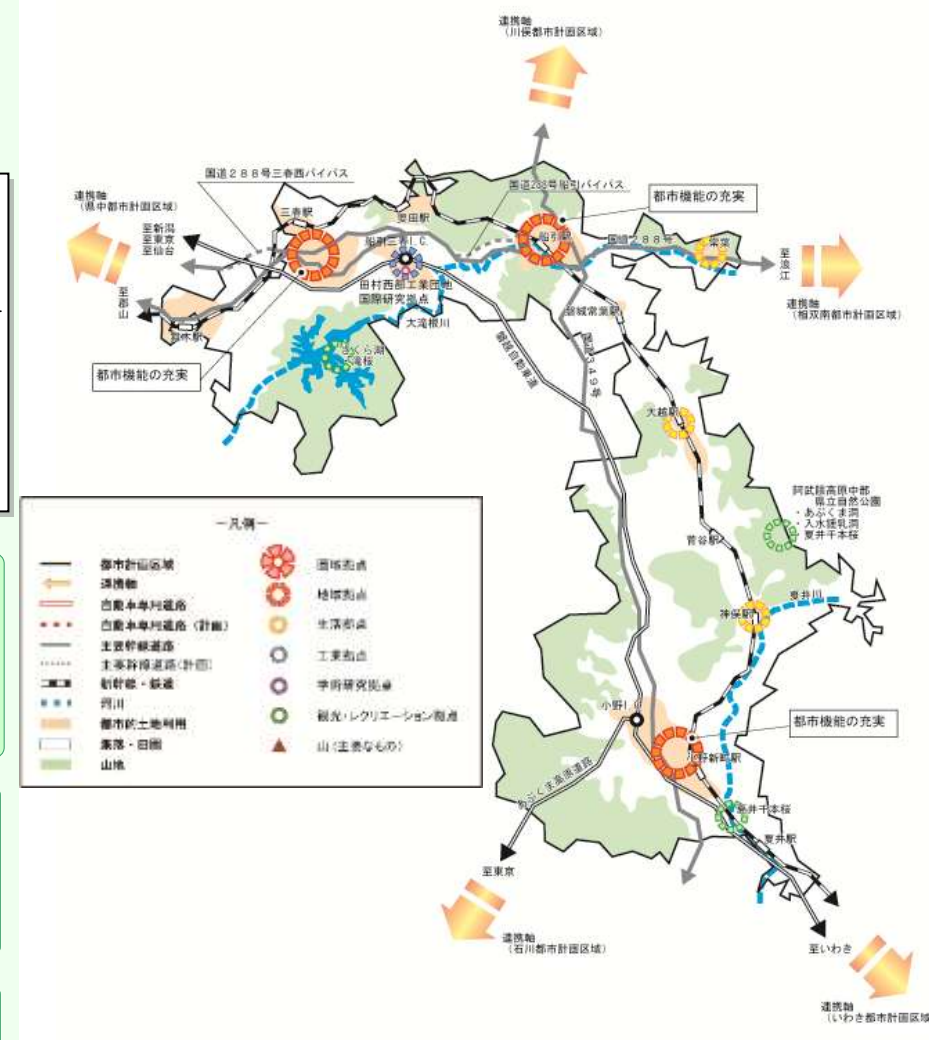


3) 当該都市計画区域の広域的位置づけ

- ・県中都市計画区域と密接に連携
- ・磐越自動車道へのアクセスを生かし、産業集積といわき及び郡山の工業集積や、都市機能集積を補完・支援する機能の誘導
- ・阿武隈の山々や三春ダムなどは良好な水源地として位置づけ
- ・歴史や自然を生かした新たな都市との交流スタイルの構築

4) 保全すべき環境や風土の特性

- ・阿武隈高地の森林地域は、多様な機能を発揮できるよう保全・育成
- ・里山として生態系を形成する、河川や農地、宅地を取り囲む山々の保全
- ・里山や田園の景観や、滝桜やあぶくま洞など自然資源の保全
- ・城下町などの歴史的資源やまち並み景観、自然景観の維持・形成



⑥ 環境負荷の少ない低炭素型のまちづくりの推進

- ・市街地を取り囲む山林や丘陵、優良な農地などの保全
- ・無秩序な市街地の抑制、市街地の緑化
- ・過度な自家用車利用の抑制、公共交通の利便性強化
- ・農地への復元が困難な耕作放棄地等の太陽光発電などによる土地利用の促進



⑦ 住民の暮らしを支える都市施設の整備

- ・土地利用や他の計画との整合性・一体性に配慮した都市施設の整備
- ・都市生活を支える都市施設の機能維持と適切な更新
- ・地域の防災性向上や、ユニバーサルデザインの理念に基づき、時代に対応した都市施設の整備



